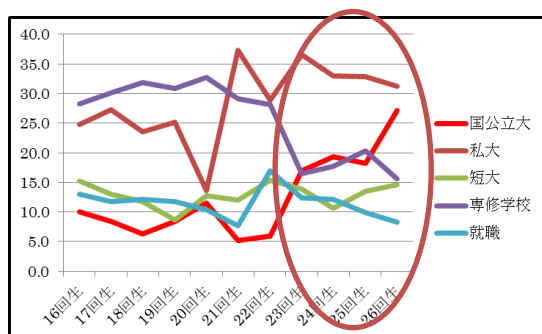


動機づけ機能としての「カタリ場」を活用したキャリア学習の現場から
—戦略的キャリア学習計画が、進学実績を変えた青森県立八戸南高校の事例—

話題提供者：今村久美

(特定非営利活動法人 NPO カタリバ 代表理事)

「カタリ場」。高校生と年齢の離れていない大学生や若手の社会人が高校を訪れ、生徒と高校生活や部活のこと、さらには将来の夢や進路についてなど、多岐に渡り語り合う授業。先生や親とは違い、直接利害関係のない第三者であり歳の近い先輩世代と話す中で、生徒たちは「少し先の自分自身」をイメージすることができる。また、「大学生の先輩ができたのだから、私にもできるかもしれない」と感じることで、今後の進路や高校生活に主体性と行動力を持つキッカケになる。NPOカタリバは東京都・神奈川県を中心に、主に関東圏で活動しているが、その「カタリ場」の授業が、青森で県の事業として根付いている。県教育委員会が、青森県独自の授業「カタリ場」にアレンジした。青森県版「カタリ場」を導入して5年が経過する八戸南高校では、「カタリ場」を他の学習と有機的に関連させ、進学実績を挙げている。



県内で国公立大学へ AO・推薦入試で40名を超える高校は、1年に1校出る程度とすることで、進路多様校としての八戸南高校のこの数字は驚異的だという。もちろん、進学実績の向上が、「カタリ場」の目的では

ない。「社会参画資質・能力を育成」するための土台となる「大人になることに対する関心」であり「自分が生きるこの社会への関心」を生み出すことが本来の目的である。

八戸南高校の実施例

実施時期 高校2年生の6月第二土曜日

時期の意図 第一土曜の高校総体が終わり、2年生が学校、部活、そして進路について考える時期への切り替えを意識させるため

カタリバ後の取組

- ・ **6月最終土曜「八戸南大学」**
全国10数大学20名程度の大学講師を招き、生徒が授業を選択し受講
- ・ **夏休み「鮫・燕島ボランティアガイド」**
地元のお祭りで行う観光ガイド。(希望者のみ参加) 事前研修とグループワークで準備。生徒は部活動優先の傾向が強く参加者が集まらないのではないかとと思われるが、今年は102名程(200名中)の生徒が参加
- ・ **職場体験**

カタリバは良質な動機づけの機会であるがそれ単体では意義を継続できない。学校教育の計画に戦略的に位置づけることではじめて、成果につながる。

八戸南では、動機づけられた生徒たちの意欲を社会貢献活動に繋げ、社会との接点を感じさせる中で、それを自らの進路学習とリンクさせることを目的に挙げる。地域公立で5番手校(10校中)と先生生徒が表す八戸南高校の活気は、ここ5年で大きく変わった。最近では、多数の卒業生がカタリバキャストとして母校で活動している。